



奥様の都子さん(中央)、中村さんのお姉さん(右端)と工房スタッフの皆さん

映画館で「007」を観ている時だった。工房のスタッフが、父・行雄さんの交通事故を知らせに来た。股関節骨折という大けが。完治しても、染色というハードな作業をこなすのは難いだろう。これで中村さんの人生は決まっていた。「特に家業に興味があったわけではなかったから、「いつかどこかに出てやる」と思っていたんだけど、ずるずると居座ってしまったんだよねえ」と話す中村さんだが、その声は少しも暗くない。

「生さんとか、今コラボレートしている平野さんとか千早ちゃんとか、いろんな人と出会うことができたことを考えると、この仕事をして良かったと思うよね。」

でも、「一瞬の出会い」を「生涯にわたる付き合い」に変えたのは、中村さんならではの人情と努力。人なつっこい笑顔も、ちよっぴりミーハーな楽しい会話も、「チームの仕事がスムーズにやり遂げるため」の気配りだったりすることも少なくないのだ。

「牡羊座の僕は「自分」が強すぎて敵が多いんだ」と否定的に話す中村さん。しかし伝統工芸であるホームズパンに新しい風を吹き込み、現代人を魅了する作品を生み出しているのは、その「強さ」なのである。

(A)



【中村工房・ショールーム】  
岩手県盛岡市高松3-2-15 tel.019-661-5277  
http://www.18.ocn.ne.jp/~n-coboo/index.htm  
OPEN/10:00~16:00



中村さんはブライスを「うちの娘」と呼ぶ(笑)。「特にプロンドの娘が好き」なのだとか。コラボレートしている帽子作家の平野朋さんに専用の帽子を作ってもらい、「着せ替え」(!?)も楽しむ



うちのこ

「異様な頭のデカさに惹かれたんだよねえ」と話す中村さんは、1体1万数千円〜と高価なこの人形を、現在23体も持っている。ブライスは平野さんの友人の中山理恵子さんを通じて購入することが多い



1972年にアメリカで発売されたブライズドールは当時はまったくウケなかったが、数年前から日本で大ブレイク!

## ブライズ

## ユーミン

CDはもちろん、写真集やインタビュー記事がのっている雑誌などコレクションは多数。仕事で東京に行った時には自宅を探し当て(本人曰く「スターカーではありません」)、その前で記念写真。その写真を卓上カレンダーにしたもの(写真中央)は、今でも大切に飾っている



マニアックな趣味とは裏腹に、大御所・松任谷由実の大ファン。「ひ」文字のタグのデザインは、ユーミンがサインに使う記号をアレンジしたものだ。また、ファンクラブの会員証(手前の紫色のカード)を撮影したのがきっかけで、ポストカード用の写真を撮影するようになった

## ちいさいもの、いろいろ

陶製の馬上杯はバリのプランタンで、ロイヤルコペンハーゲンの小物入れは有町の「ながう」で20年以上も前に購入したものだ。「あの頃盛岡でロイヤルコペンハーゲンを買っているのはあの店だけだったと思う」



彩色ガラスを組み合わせた繊細な香みは、友人の江波富士子さんの作品

「マイブーム」は、「東京ベリーニドルチェ」のエスプレッソクッキー。お供のコーヒーは、ロイヤルコペンハーゲンのカップで。磁器も好きで、さまざま集めている

## スイーツ



「漆器は東京の知り合いのギャラリー「como」で買ったの。ハイヒールは、バッグでコラボしている(革工芸品作家の渋谷)千早ちゃんのネットで売っていたもの。アクセサリーはたしか中ノ橋通の「しゅん」で買ったはず。だいたい友だちとか知り合いの店で買うことが多いよね」

東京人以上に東京周辺のおいしいスイーツやケーキショップに詳しい中村さんは、女性誌で「甘いもの食べ歩き」の特集を組まれたことがあるほど